

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 3 区分

【発行日】平成30年5月10日(2018.5.10)

【公表番号】特表2016-514184(P2016-514184A)

【公表日】平成28年5月19日(2016.5.19)

【年通号数】公開・登録公報2016-030

【出願番号】特願2015-561493(P2015-561493)

【国際特許分類】

C 0 9 J 7/20 (2018.01)

C 0 9 J 201/00 (2006.01)

C 0 9 J 11/08 (2006.01)

B 3 2 B 27/00 (2006.01)

B 3 2 B 27/30 (2006.01)

C 0 9 J 133/08 (2006.01)

【F I】

C 0 9 J 7/02 Z

C 0 9 J 201/00

C 0 9 J 11/08

B 3 2 B 27/00 M

B 3 2 B 27/30 A

C 0 9 J 133/08

【誤訳訂正書】

【提出日】平成30年3月19日(2018.3.19)

【誤訳訂正 1】

【訂正対象書類名】特許請求の範囲

【訂正対象項目名】全文

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

(a) 基材 (S a) と、

(b) 前記基材 (S a) と接触した、 -10°C 以下のT gを有する1つ以上のアクリル系ポリマー (P O L b) を含む、粘着付与剤不含組成物 (C b) の層 (L b) と、

(c) 前記層 (L b) と接触した、1つ以上の粘着付与剤及び -10°C のT gを有する1つ以上の炭化水素ポリマー (P O L c) を含む粘着付与剤含有組成物 (C c) の層 (L c) と、

を含む、感圧性接着剤物品。

【請求項 2】

前記物品中の前記粘着付与剤の量が、前記組成物 (C b) と前記組成物 (C c) との合計重量に基づいて、12重量%以下である、請求項 1 に記載の物品。

【請求項 3】

前記アクリル系ポリマー (P O L b) が、n-ブチルアクリレート、イソオクチルアクリレート、またはそれらの混合物の重合単位を含む、請求項 1 に記載の物品。

【請求項 4】

前記粘着付与剤が前記アクリル系ポリマー (P O L b) と非相溶性である、請求項 1 に記載の物品。

【請求項 5】

基材 (S d) を請求項 1 に記載の物品と接触させることを含む方法によって作製された

接合物品であって、前記基材（S d）が前記層（L c）と接触する、前記接合物品。

【誤訳訂正 2】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0001

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0001】

アクリル系ポリマーを含有する感圧性接着剤（P S A）は、多くの望ましい特徴を有する。例えば、それらは通常、多くの他の材料から作製されたP S Aよりも化学試薬及び紫外線光に対して良好な耐性を有する。ポリオレフィン基材に良好に接合するP S Aを提供することが所望されることが多い。以前に使用されたP S Aにおいて使用されている粘着付与剤よりも少量の粘着付与剤を使用するP S Aを提供することも所望される。ポリオレフィン基材に対して良好な接着性を示し、かつ比較的少量の粘着付与剤を有するアクリル系ポリマーを含有するP S Aが必要とされている。

【誤訳訂正 3】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0004

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0004】

本発明の第1の態様は、

（a）基材（S a）と、

（b）該基材（S a）と接触した、 -10°C 以下の T_g を有する1つ以上のアクリル系ポリマー（P O L b）を含む粘着付与剤不含組成物（C b）の層（L b）と、

（c）該層（L b）と接触した、1つ以上の粘着付与剤及び -10°C の T_g を有する1つ以上の炭化水素ポリマー（P O L c）を含む粘着付与剤含有組成物（C c）の層（L c）と、を含む、感圧性接着剤物品である。

【誤訳訂正 4】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0005

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0005】

本発明の第2の態様は、基材（S d）を第1の態様の物品と接触させることを含む方法によって作製された接合物品であって、該基材（S d）が該層（L c）と接触する、接合物品である。

【誤訳訂正 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0006

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0006】

【図1】図1は、基材（S a）（1）、 -10°C 以下の T_g を有する1つ以上のアクリル系ポリマー（P O L b）を含有する粘着付与剤不含組成物（C b）の層（L b）（2）、ならびに1つ以上の粘着付与剤及び -10°C 以下の T_g を有する1つ以上の炭化水素ポリマー（P O L c）を含有する粘着付与剤含有組成物（C c）の層（L c）（3）を示す本発明の感圧性接着剤物品の垂直断面図である。図1は、決して原寸に比例して描かれていない。例えば、図1に示される水平方向の本発明の感圧性接着剤物品の寸法は、図1に示される垂直方向の寸法よりも1,000倍以上大きい場合がある。

【図2】図2（同様に原寸に比例して描かれていない）は、本発明の感圧性接着剤物品の

好ましい使用を描写する。図2は、追加の基材（S d）（4）と接触した層（L c）（3）を示す。

【誤訳訂正6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0026

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0026】

感圧性接着剤（PSA）は、圧が接着剤と基材を接触させるために適用されるとき、基材との接合を形成する接着剤である。接合は、更なる材料の追加または加熱なしで生じる。本明細書で使用される場合、感圧性接着剤物品は、感圧性接着剤が第1の基材に接着され、第2の基材と接触するためにPSAの面（「有効面」）が有効である状態での物品である。PSAの有効面は、剥離材と接触し得る、または接触し得ない。剥離材は、PSAとの弱い接合を形成し、有効面が露呈するように容易に除去され得る材料であり得る。

【誤訳訂正7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0029

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0029】

本発明は、本明細書において標識基材（S a）である基材の使用に関連する。基材（S a）は任意の材料であり得る。紙、ポリマー膜、及び金属箔が好ましい。ポリマー膜の中で、ポリエステル、ポリ塩化ビニル、ポリエチレン、及びポリプロピレン膜が好ましい。ポリマー膜の中で、少なくとも1つの面がコロナ放電によって処理されているものが好ましい。

【誤訳訂正8】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0030

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0030】

本明細書において組成物（C b）と称される粘着付与剤不含組成物の層が基材（S a）と接触する。組成物（C b）は、本明細書においてポリマー（POL b）と称される1つ以上のポリマーを含有する。ポリマー（POL b）は、 -10°C 以下、好ましくは -20°C 以下、より好ましくは -30°C 以下のT_gを有する。好ましくは、ポリマー（POL b）は、 -100°C 以上のT_gを有する。

【誤訳訂正9】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0037

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0037】

好ましくは、組成物（C b）は、基材（S a）の表面上で連続層（L b）を形成する。好ましくは、組成物（C b）の層の厚みは、7.5マイクロメートル以上である。好ましくは、組成物（C b）の層の厚みは、75マイクロメートル以下、より好ましくは55マイクロメートル以下、より好ましくは40マイクロメートル以下である。

【誤訳訂正10】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0055

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0055】

組成物（C b）の層は、任意の方法によって基材（S a）に塗布され得る。好ましくは、水性連続媒体中で分散されるポリマー（P O L b）の粒子を含有する水性組成物（C b 1）が形成される。好ましくは、組成物（C b 1）は、水性エマルジョン重合（a q u e o u s e m u l s i o n p o l y m e r i z i n g）によって形成されて、ポリマー（P O L b）の粒子のラテックスを形成する。好ましくは、ポリマー（P O L b）の粒子の中央粒径は、50 nm～750 nmである。好ましくは、連続媒体中の水量は、連続媒体の重量に基づいて、75重量%以上、より好ましくは90重量%以上である。

【誤訳訂正11】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0056

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0056】

1つ以上の任意の追加の成分は、水性組成物（C b 1）に添加されてもよい。水性組成物（b 1）の層は、任意の方法によって基材（a）に塗布されてもよい。好ましい方法は、摺動コーティング、カーテンコーティング、及びスロットダイコーティングである。

【誤訳訂正12】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0057

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0057】

水性組成物（C b 1）の層（L b 1）が基材（S a）に塗布された後、水性組成物（C b 1）の層が乾燥され得るか、または乾燥させられ得る。つまり、水は、乾燥コーティングを形成するために水性組成物（b 1）の層から除去されてもよい。水は、好ましくは、加熱または空気の移動または両方によって除去される。

【誤訳訂正13】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0060

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0060】

幾つかの実施形態において、水性組成物（C b 1）の層（L b 1）を基材（S a）に塗布し、乾燥させ、その後、水性組成物（C c 1）の層（L c 1）を組成物（C b）の乾燥層に塗布し、次に水性組成物（C c 1）の層（L c 1）を乾燥させる。

【誤訳訂正14】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0061

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0061】

幾つかの実施形態において、水性組成物（C b 1）の層（L b 1）を基材（S a）に塗布し、水性組成物（C b 1）の層（L b 1）が未だ湿っている状態で、水性組成物（C c 1）の層（L c 1）を水性組成物（C b 1）の層（L b 1）上に塗布し、その後、全ての集合体を乾燥させる。かかる実施形態の中で、水性組成物（C b 1）の層（L b 1）を基材（S a）に、かつ水性組成物（C c 1）の層（L c 1）を水性組成物（C b 1）の層（L b 1）上に同時に塗布し、その後、全ての集合体を乾燥させる多層コーティング装置を使用することが好ましい。1つの好適なコーティング装置は、摺動コーティング機である

。摺動コーティング機は、水性組成物（C c l）の層（L c l）の下に水性組成物（C b l）の層（L b l）がある液状複合体を形成し、それらの層をそのままの状態に保ったまま、摺動コーティング機が、層（L b l）と基材（S a）が接触し、層（L c l）と空気が接触するような方法で基材（S a）上に全ての複合体の層を塗布し、その後、全ての物品を乾燥させ、水性組成物から水を除去する。また、例えば、剥離ライナー上で組成物（C b）のコーティング層を作製し、その後、組成物（C b）の層の上で組成物（C c）のコーティング層を作製し、その後、組成物（C c）の層と基材（S a）（好ましくは圧下で）を接触させ、その後、剥離ライナーを除去することを含む、転写コーティングの方法も企図される。

【誤訳訂正 1 5】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 4

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 4】

本発明の感圧性接着剤物品が、それと追加の基材（S d）を接触させることによって使用されるようになることが企図される。圧が適用されて、組成物（C c）と基材（S d）とを密着させ、続いて剥離させることが企図される。結果、感圧性接着剤物品がまだそのままの状態であり、組成物（C c）が基材（S d）と接合される接合物品になるであろうことが企図される。基材（S d）は、任意の物質であってもよい。好ましくは、基材（S d）は、ポリオレフィンである。好ましくは、基材（S d）は、5 0 °C以上のT gを有する。

【誤訳訂正 1 6】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 8

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 8】

H D P E 剥離試験は、H D P E の試験基材、2 0 分の滞留時間、1 8 0 °を用いた P S T C 試験方法 1 0 1（Pressure Sensitive Tape Council, Naperville, IL, USA）であり、ニュートン単位で幅 2 5 mm（N / 2 5 mm）毎に報告された。

【誤訳訂正 1 7】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 6 9

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 6 9】

S S せん断試験は、ステンレス鋼の試験基材を用いた P S T C 試験方法 1 0 7（Pressure Sensitive Tape Council, Naperville, IL, USA）であり、試験領域は 2 5 mm X 2 5 mm であり、質量は 1 k g であった。報告される結果は、失敗までの時間である（記号「>」は、試験が、失敗前にその時点で停止されたことを意味する）。